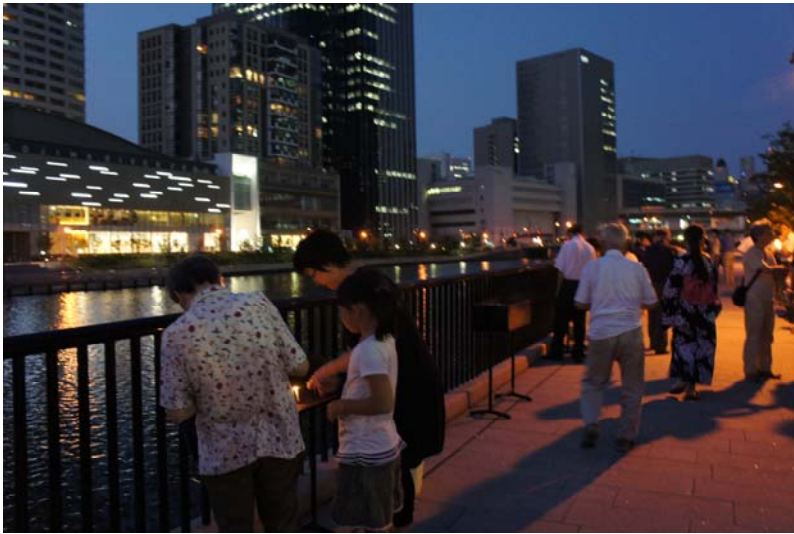


## 中之島精霊流しへのご案内

中之島精霊流し実行委員会

みなさんは、**精霊流し**ということばをご存じでしょう。盂蘭盆会に家庭でお祭りしたホトケさんを川に流すといった民俗行事です。宗旨により、精霊流しをなさらない家庭もありますが、特定の仏教の宗派で行う行事というものではありません。私は、毎年、8月13日夕方、お盆にはホトケさんをお迎えし、お祭りし、お送りしています。子どものころの玉江橋での精霊流しのことを思い出します。…阪大病院前の玉江橋は8月15日の宵には先祖さまを送る橋となる。餓鬼さんにもヒモジイ（空腹な）思いをさせないようにと、盆棚の果物などの、お供え物を船にした紙箱に載せて流した。紙箱の船に蠟燭を立て、橋を降り、闇の中そーろっと川に浮かべた。いつも、「船」が見えなくなくなるまでに蠟燭の火は消えていた……。

そもそもお盆に来られるのはどなたなのでしょう。わかっているようでわからないのです。経木に戒名を書いて仏壇にお祭りする先祖さまたちとは別に**餓鬼棚**を設けている家庭があります。私の家では、日に3度のお供えと一緒にあげたお茶湯をお下げする際、貯めておいて夜に四つ辻に撒きに行きます。その時には「餓鬼に施す。餓鬼に施す」と唱えます。亡母からは、このお盆の時期には、家に祭られぬ喉を渴かした霊が道端にいるので、お茶湯をやると聞かされております。8月15日、昼下がりともなれば、持って往んでもらうためのシラムシ（白蒸）や、白玉の送り団子も用意します。お供え物



は足が速いからとか言って、なぜか早く往んでもらいたがりました。

夕方ともなれば、お勤めの後、仏壇のリン（鈴）を鳴らし、門口でオガラ（苧麻）を焚いて送ります。

ホトケさんをいちどのようにして送るのか。**送り火**を観光にする都市もありますが、北摂池田の**ガンガラ火祭り**なども早くから行われております。盛大に**精霊船**を仕立てたり、**燈籠流し**をする地方もあります。

東北地方の**ネブタ**のような睡魔を祓う行事も同系列の民俗行事です。大阪の夏の風物詩となれば、天満天神の盛大な**船渡御**が挙げられます。

この行事の原形は**銚流し神事**に認められます。その神事は、夏を無事に過ごそうとする**夏越の祓**であり、遡れば**疫病神送り**にまで行き着きます。どこか、餓鬼さんを送る精霊流しとも似てきます。今、一度、精霊流しで送り出されるのはどなたかを神仏の粹組を取っ払って考えてみますと、水の都大阪に培われた民俗文化の一端がみえてくるでしょう。

民俗学研究者 博士（文学） 田野 登記